



パスファインダーとは？

テーマごとに、学習・研究に役立つ資料や Web サイト、調べ方などをまとめた「探し方の道しるべ」です。主に学修相談カウンターの支援員（本学院生）が各自の得意分野で作成しています。

テーマ



防災教育

作成担当／作成日

数理自然・技術プログラム 1回生／2025年11月作成

イントロダクション

防災教育とは、大雨や地震などの様々な危険から、子どもの安全を確保するために行われる**安全教育**の一種です。毎年のようにやってくる自然災害に備えるためには、まず災害が発生する仕組みを知り、社会と地域の実態を把握して備え方を学び、災害発生時の対処の仕方を実践に移すことが大切です。現状として、文科省も「防災を含む安全に関する教育」を幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の校種ごとで示し、子どもたちをどう守っていくか、学校の現状と課題から**学校防災の充実化**がますます求められています。本紙では、教員や子どもたち、保護者、地域の方など、様々な立場から防災教育について捉え、過去の事例を踏まえながらどのような行動を取るべきか、考えを深められる様々な本を紹介しています。本をきっかけに、防災教育についてまずは知ることから始めてみませんか。

入門書

『防災教育』言葉は聞いたことがあっても、具体的にどんなことをすれば良いか分からず…。そんな方に向けて、「これを読めば、防災・防災教育が分かる！」という本を集めました。読みやすい本がたくさんそろっているので、是非気軽に手にとってみてください。

No.『資料タイトル』

著者名、出版社、出版年。

<配置場所、請求記号、資料 ID>

→支援員からのコメント

1.『やってみた!いのちを守る64の防災活動:小学生の体験レポート+専門家のアドバイス』

関西大学初等部6年生(第11期生)著、さくら社、2024.

<開架 西館2階、369.3||KA59、9241013495>

→この本の執筆者は小学生です。大阪府北部地震を経験した小学生が「災害被害=0」を目指して防災イベントを主催しました。その際に出た「イベントに参加しなくても、きちんと学べる実用的な知識を得ることができる方法は何か。」という意見をきっかけに、本書が出版されました。本書には、子どもたちが防災用リュックを作ったり、非常食を食べたり、避難施設まで歩いて見たり、実際に彼らが行動してみて気づいたことや改善すべきことが、わかりやすい文や写真、イラストとともに掲載されています。子ども目線で防災教育を捉えることができ、学校現場で取り入れやすいヒントもたくさんあるため、授業実践にもピッタリです。

2.『防災イツモマニュアル』

防災イツモプロジェクト編、ポプラ社、2024.

<新書 南館2階、369.3||B66、9241038187>

→防災は「モシモ」の時に備えるもの。私はこの本を読むまでそう考えていました。しかし、本書は「モシモ」ではなく、「イツモ」災害とつきあうことの必要性を伝えてくれます。「イツモの暮らし」でどう備えるか、どれも始めやすい行動で、誰でも実践できるものがたくさんあります。例えば「イツモ」行う挨拶や散歩も、「モシモ」の時は誰がどこに住んでいるのかが分かったり、防災拠点や避難経路を把握したりすることに繋がります。知識だけではなく、実際に役立つ知識が分かりやすいイラストと共に詰まっています。

3.『学校を災害が襲う時:教師たちの3.11』

田端健人著、春秋社、2012.

<開架 西館2階、369.3||TA11、9121246425>

→2011年3月11日14時46分に発生した東日本大震災。この日は卒業式を終えた学校や、授業中、下校中の学校がほとんどで、先生方は状況に応じた様々な対応に迫られました。そして、このタイミングだったからこそ救えた命、救えなかった命もありました。あの日、あの時、学校でどんなことが起こっていたのか、震災当時に宮城県で働いていた先生方への聞き取りをもとに本書は展開されています。たくさんの命を守る使命がある学校で、私たちが取るべき最適な行動とは何か。大震災を経験した先輩教員の体験談から、今後やってくる自然災害に対して取るべき行動を見直す機会になりますように。

4.『今すぐできる学校の防災管理:少しの工夫でこんなに改善!』

廣内大助, 佐々木克敬編著、東京法令出版、2024.

<開架 西館 2階、374.92||H75、9241057306>

→災害発生時、必ずといっていいほど避難所となる場所が学校です。過去の災害で多くの人の命を救った学校と、深刻な被害が出てしまった学校の差には、災害に対する日頃からの学校の体制や準備がありました。学校防災は一人ではなく各教員が気づいた時に、教職員という組織、保護者や地域の方々と連携して行動することが重要です。本書では学校の掲示物や備品、引き渡し、教職員研修など、学校で行われる様々な活動でどう備えていくか、実践例や写真が多く掲載されています。また、特別支援学校に対応した備えも掲載されており、どの学校でも役立つ一冊です。本書を通して災害発生時に少しでも自分にできることを増やしませんか。

専門書(さらに詳しく知りたい方へ)

1.『東日本大震災後の子ども支援:震災子ども支援室("S-チル")の10年』

加藤道代, 一條玲香編著、東北大学出版会、2021.

<開架 西館 2階、369.31||KA86、9211026987>

→東日本大震災では自身の命は助かったものの、両親を亡くした子どもたちが多くいました。そんな子どもたちを支援するために、東北大学大学院教育学研究科に「震災子ども支援室(通称“S-チル”)」が立ち上りました。時間が経つにつれて支援機関も減少していく中、S-チルは10年間も活動を続け、多くの子どもや周りの大人たちを支援してきました。本書はS-チルが支援を求める声に耳を傾け、日常への思いに寄り添ってきた活動を風化させないよう記録として遺したものです。長期にわたり支援の過程を、多くのデータや活動をされてきた方々のインタビューから辿る一冊です。

2.『教師のための防災学習帳』

小田隆史編著、株式会社朝倉書店、2021.

<開架 西館 2階、374.92||O17、9211029764>

→本書は教員のみならず、教職を志す学生にとって、防災教育を学んだり、実践したりするための教科書となる一冊です。法律や心理、地形の特徴、過去の事例など、様々な視点から全般的に防災について学ぶことができます。教員としてはたらく際はもちろん、教員採用試験の対策にも役立つ基礎知識をこの本で身に付けましょう。

3.『防災まちづくり・くにづくり学習:実践シティズンシップ教育』

藤井聰, 唐木清志編、悠光堂、2015.

<開架 西館 2階、374.92||F57、9161092036>

→防災教育は、第一にいのちを守るために行いますが、防災教育の目的はさらに幅広くあります。本書が提案する「防災まちづくり・くにづくり学習」は、防災学習の一種に位置付けられ、「自分たちの暮らしの環境を整える」視点を学びつつ、子どもたち一人ひとりの社会形成力や公民的資質、生きる力、まち・くにを守る力を育むことを見据えています。教員が児童生徒を「未来を創る子どもたち」と捉え、まち・くにの担い手として活躍できるような実践が大切です。本書は様々な立場の方が執筆された防災学習に関する論文を実践例と共に学ぶことができます。いのちを守るだけではない防災教育の実現に向け、認識を広げてみませんか。

Web サイト

1.『防災教育ポータルサイト』 国土交通省

<https://www.mlit.go.jp/river/bousai/education/teacher.html>

→国土交通省が公開しているサイトで、防災教育に関するリンクがたくさん掲載されています。教科や災害、学年に合わせて必要な教材を選ぶこともできます。また、教員向けページと、こどもページがあり、用途に合わせて使い分けができるところも使いやすいポイントです。

2.『防災教育 switch』 中越防災安全推進機構

<http://furusato-bousai.net/>

→このサイトは学年・災害別に新潟県の防災教育の実践例を中心に紹介しています。教材のダウンロードや実践報告も多数記載されていて、誰でもすぐに防災教育を始めることができます。このサイトをヒントに、防災教育に対するハードルを下げて、できることから取り入れてみませんか。

資料を探すときのキーワードの一例

防災教育、防災学習、学校防災、防災リテラシー、ハザードマップ、マイ・タイムライン、防災まちづくり

※2語以上からなるキーワードは、間にスペースを入れると検索結果が異なってきます。